

データ解析マニュアル —EBPM に向けて—

関西学院大学法学部 教授 小川 大和

昨今、EBPM (Evidence-based Policy Making: エビデンス (証拠) に基づく政策立案) の取り組みが推進されています。エビデンス・ベースと対比される概念として、エピソード・ベース (Episode-based Policy Making) があります。政策を立案される職員の方の経験、勘、他の優良事例などに基づく政策立案になります。エピソード・ベースにも強みがあり、両者を組み合わせることでより頑強な政策になると考えられますが、従前はエピソード・ベースに偏り、科学的根拠 (客観性) が少し低かったことから、2010年代から欧米に続いて必要性を説く議論が高まってきました。

これまでも、行政では、データやファクト、将来予測などに基づいて政策立案を行ってきました。例えば、困窮状態に置かれている子どもの割合の過去の推移や将来推計を把握して取り組みの必要性を認識し、困窮世帯に対する生活状況のヒアリングを行った結果等を踏まえて、有効な子どもの貧困対策が立案されてきたと思います。しかし、これらは、広義のエビデンスには含まれますが、狭義のエビデンス (一般的にEBPMということこちらになると思います) には含まれないと理解しています。狭義のエビデンスとは、統計的・定性的手法等を用いて明らかになった政策の因果効果をいい、例えば、ランダム化比較試験によって明らかになった教育プログラムの効果、生活習慣の良い子どもと悪い子どもの学力の比較などになります。統計的手法等とは、回帰分析、差の差の分析、ランダム化比較試験等になります。

聞きなれない言葉も多く、難しそうにも思えて、経済学部卒の方以外は、それだけで勉強する意欲を

失ってしまうに十分な気がします。仮に、勉強しようと思っても、教科書どおり「統計とは」という考え方から入ってしまうと、「数式が少くない入門書」であったとしてもつまづいてしまう方が多い気がします (私もその一人です)。ただ、コンピューターの動く原理を知らなくてもパソコンを使いこなせるように、統計の基本的な考え方があまりわからなくても、統計ソフトをマニュアルに沿ってポチポチクリックするだけで統計分析は可能だということに気づきました。統計の考え方で不明点が出てくれば、パソコンの動作不具合やExcelの数式等と同様、その都度必要なときにインターネットから情報を得れば基本的には実務上は十分だと感じています。

そこでご紹介したいのは、「ていねいでわかりやすいクリックするだけの統計入門」というキャッチフレーズの『SPSSによる統計処理の手順』『SPSSによる分散分析・混合モデル・多重比較の手順』『SPSSによる多変量データ解析の手順』(いずれも石村光資郎/著、石村貞夫/監修、東京図書、3,080円・3,520円・3,080円) です。統計の入門書は、様々なものがあり、良書もたくさんありますが、自分に合うものがどれか悩んでしまうと思います。ご紹介した書籍は、入門書というよりマニュアルに近く、ページに沿ってクリックしていくだけで統計分析ができ、分析結果も理解できてしまいます。なお、SPSSという統計ソフトの導入が前提になりますが、とても一般的なソフトです。関西学院大学に出向させていただいて思うのは、政府機関は、様々な種類のデータを豊富に保有し、また、取得できる立場におり、本当にめぐまれているということです。それらを活用し、さらに有効な政策を立案して、住民の福祉の向上に寄与することはとても意義あることだと思います。その一助になれば幸いです。



『SPSSによる統計処理の手順』
石村光資郎/著
石村貞夫/監修 東京図書